

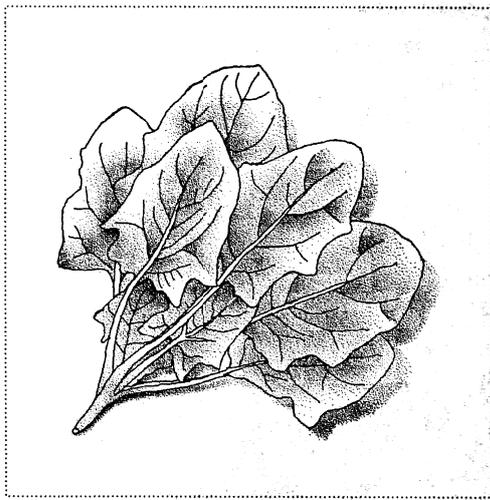
酸性土壌避け適品種を

——**鮫島 國親**

鉄分やβカロテンなどを豊富に含む優れた緑黄色野菜です。品種は多様で西洋種、東洋種、交雑種があります。庭先やプランターで手軽に作れますが、栽培する時期にあった品種を選ぶことが重要で、選択を誤ると、株が大きくならないうちに花が咲いてしまうこともあります。また、**酸性土壌を嫌う**ことでも知られています。近年は専作的な周年栽培が広く行われています。今回は雨よけ栽培を紹介します。

発芽適温、生育適温ともに15－20度です。条件が良ければ根が深く張り、旺盛な生育をします。酸性土壌では発芽が悪く、生育も抑制されます。長日・低温で花芽が分化し、分化後は長日・高温でとう立ちが促進されます。連作は可能ですが、高温期は立ち枯れ性病害が発生しやすくなります。年一回は太陽熱消毒を行うと良いでしょう。雨よけ栽培ではハウスを密閉して行うとより効果的です。

本ぼには1平方メートル当たり苦土石灰100グラム、堆肥1－2キログラム、化学肥料100グラム（三要素15％の場合。連作下では減肥）を目安として施します。



なお、前作終了後、畑全体にかん水し、深層部まで湿らせませす（1平方メートル当たり30％）。栽植密度は条間220－25センチとし、間引き後の株間が6－8センチとなるよう種まきの密度を調節します。

種まき後軽くかん水し、発芽から本葉3－4枚ごろまではかん水を控えます。本葉4枚以降は土壌が乾燥しない程度に、日中高温時を避けて、1平方メートル当たり5－10％を適宜かん水します。生育後期（秋－春）は徐々にかん水を控え、収穫前の1週間はかん水を中止し、棚持ちの良いホウレンソウに仕上げましょう。

夏季は遮光率50％の資材をかぶせて日差しを和らげ、温度上昇の抑制に努めましょう。害虫対策としては1メートル目合いの防虫ネットを張ると効果的です。生育日数は夏まき（冷涼地）で25－40日、春・秋まきで35－50日、冬まきで50－65日程度です。なお、秋まきは最も栽培しやすく、露地条件でも良くできます。草丈25－30センチ前後で収穫します。

（鹿児島県農業開発総合センター副所長）

平成19年9月13日（木）／南日本新聞

